



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887(33)3833

発行責任者
山崎 一明
<http://okura-kai.com/geisei/>



看護部長就任のご挨拶

看護部長 田村文佳



左：宮川看護副部長 中央：田村看護部長 右：野町看護副部長

令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。また被災活動に尽力する医療福祉事業者の皆様には心から敬意を表します。全国各地で地震が起こり、来る南海トラフ地震にどのように備えていくべきかと考える日々です。

さて、私は、このたび角谷広子看護部長の後任として、

芸西病院の看護部長に就任致しました。高齢者看護を様々な場で学び、老人看護専門看護師として実践を行ってきました。そして、法人内どの部署でケアをしても老人看護ができる医療法人おくら会に魅力を感じ、平成24年に就職し今に至ります。そしてこの芸西病院で出会った宮川看護副部長、野町看護副部長は、未熟な私を常に支えて下さる先輩です。この3名で4月より新しい看護部長室をスタート致しました。

高知県は全国の一步先を行く高齢化の先進県であり、また、県東部は高齢化がさらに進み、生産人口の減少や要介護者の増加、独居の方が多いなど様々な課題があります。これらの課題を乗り越えていくために必要なものの一つは、「変化」ではないかと考えます。一方で、この変化の中でいつも私が考えていることは、残すべきものを見極めるといことです。つまり、変化が著しい時代のなかで、変えていくもの・変えてはいけなものを極め、活かす力が今こそ必要です。

前看護部長から学んだ様々なことの中で強く心に留めているのは「人権は命と同じくらい尊重すべき」です。これは精神科看護、老人看護を担っていくうえで忘れてはいけない、看護の基礎であり、またどんなに変化を遂げても、変えてはいけない看護の真髄です。私の看護の志は、「一つ一つのケアを丁寧に積み重ねる」ことです。看護実践者から看護管理者となり、丁寧なケアができるような看護管理を行っていきたいと思っております。

微力ではありますが、少しでも地域医療に貢献できるように、皆様のサポートも頂きながら毎日を大切に一歩ずつ進んでいきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

当法人の看護部長室は令和5年度末で、メンバー・チェンジいたしました。

角谷・西原で看護部長・看護副部長のコンビを組んで20年になりました。その間、院内、院外を問わず様々な分野の皆様にご指導ご鞭撻を賜り、心より感謝申し上げます。

令和6年度からは、看護部長に田村文佳、看護副部長に野町清佳と宮川真由美の体制で、看護管理を継続いたします。田村は老人看護専門看護師として認知症看護を得意とし、野町はコンチネンス協会

に所属し、排泄ケアを得意領域としています。宮川は精神科の看護師長を経て、7年間医療安全管理室長として医療安全・院内感染対策等を専門としています。

当法人は時代と共に精神科領域から認知症を含む高齢者看護等にシフトしております。若い世代にバトンを渡しますが、どうかこれまで同様、法人内はもとより、関係機関の皆様との連携、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様、どうもお世話になりました。

前看護部長 角谷広子



左：角谷前看護部長 左：西原前看護副部長

芸西病院を去るにあたって

精神科医師

廣瀬 陽



て頂いた経験を次の病院でも活かし成長していきたいと思っています。

2021年4月に芸西病院に赴任して丸3年、とうとう異動となり芸西村を去る事になりました。コロナ禍の真只中、様々な制約がある中で地域医療に関わることでできた貴重な3年間でした。東部地域は広大な割に精神科のみならず病院の数が少なく、室戸市など遠方からも患者さんが来られており、赴任当初に住所を見て驚いた覚えがあります。また村内で患者さんとばったり出会う事も有り、診察室だけではない生活の様子を知れたことは大変勉強になりました。若手、と言えるほどに若くはなくなりましたがまだまだ未熟者です。同僚の先生方、患者さんとそのご家族、スタッフの皆さんに育て

さて、なにより私が残念なことは住み慣れた芸西村を離れることです。農家の方の作業や旬の食べ物の移り変わりで季節を感じながら過ごしておりました。田植えや稲刈り、生姜の収穫やサトウキビ畑を眺めながら、通勤するのが楽しみでした。ハクビシン、タヌキ、野ウサギ、キツツキ、アカシヨウビン、アオバズクなどを見つけた事も有りました。野菜、魚共に新鮮で美味しく、村内の店舗には大変お世話になりました。ついつい食べ過ぎてしまい5kg以上太ってしまいました。医師の不養生とならぬように痩せねばならないと思っておりますが難しいものです。異動を伝えた皆さんに『高知市内は街だから美味しいものは沢山あるよ』と慰めて頂くのですが、ご近所さんで産地ならではの新鮮な美味しさを頂けることには代え難く、とても芸西村

口スを感じています。

コロナ対策による行動規制は終わりましたがコロナ自体はまだ流行しており、インフルエンザの流行もまだまだ続いています。これからは花粉症も気になります。季節は春、暦は4月と言えど日差しは強く、暑くなってきました。新年度となると、つつい頑張りすぎて無理をしてみましたり疲れがたまりやすい時期です。皆様、御身体に気を付けて御過ごしください。



第15回臨床精神科リハビリテーション研究会に参加して

リハビリテーション部

加賀野井 聖二



機能についての講演でした。その中で語られた、就労に携わる発達障がいの方々への体力は健常者よりかなり低く持久力の低下に繋がっているという点は興味深く感じました。

2024年2月11日(日)に土佐リハビリテーションカレッジにおいて研究会が開催されました。この会は大学などの研究施設や病院、就労支援施設、行政、一般企業などで働く様々な職種の方々や当事者が集まり、相互の活動理解と交流を目的とした研究会です。今回のテーマは「ことばの力でつながる就労支援と社会参加」でした。前半は基礎研究や臨床研究に関する講演が4演題あり、語りの効果やコミュニケーションにおける言葉の力(相手の感情や状況に配慮し、適切な言葉を選ぶなど)、就労に関する身体

後半は特別講演とシンポジウムが開催され、特別講演では労働局職業対策課の安田敏恵氏より「障がい者就労の現状と課題」というテーマで講演頂き、障がい者の就労に関する基本的事項を丁寧に教えて頂きました。その後のシンポジウムでは安田氏からご教授いただいた内容をさらに就労現場の状況とマッチングさせ「就労に繋げるための戦略」というテーマで就労支援に関わる病院、就労支援事業所、一般企業から各シンポジストの発表ならびにフロアでの活発な質疑が行われました。私自身、全体のお話を聞く中で印象に残る内容が2点あり、まず1点目は沖縄県で就労支援事業所の運営をされている玉元氏から「就労に繋



右端：当院理学療法士 近藤友香

がったとしても、その後の維持をどのようにフォローしていくかが重要である」との発言、2点目は一般企業のサニーマートさんから就労現場での相乗効果として「障がい者が就労に関わることで他のスタッフが優しくなれる」との言葉が大変印象的でした。我々は就労に繋げることに囚われすぎていた感があり、繋げて終わりではなくそこからがスタートであり、就労継続においては「心身の安定維持」の重要性を痛感しました。今後は今回の学習内容を当院の臨床業務に役立てていきたいと思えます。

令和5年度おくら会地域講演会

「おひとり様終活に向けて支援者として知っておくべきこと」

in 安芸市総合社会福祉センター

支援事業所みずき 主任介護支援専門員
医療福祉部研修委員会リーダー **橋田 二美**



令和6年2月3日土曜日、安芸市総合社会福祉センターにおいて令和5年度おくら会地域講演会「おひとり様終活に向けて支援者として知っておくべきこと」を開催いたしました。今年度の医療福祉部では、

身寄りのない方の支援についての課題を地域の専門職と一緒に考えることを目標に、法テラス安芸法律事務所の弁護士、峰松和夫氏と高知市社会福祉協議会の共に生きる課高知市成年後見サポートセンター、センター長の末村美和氏を講師としてお招きしました。

峰松氏からは、法的観点から遺言書の作成や死後事務委任契約、エンディングノートの作成、相続や相続放棄についてのお話がありました。また、末村氏からは身寄りがないことによる課題解決に向けた社会制度や「これからあんしんサポート事業」についての詳しい説明、また福祉の現場からは身寄りがなく困っていた方への支援事例について講演して頂きました。

介護支援専門員や民生委員、病院・施設のソーシャルワーカー等の参加者は50名を越え、室戸市や香南市など遠方からの参加者もいらっしゃいました。身寄りのない人支援にかかわる多くの専門職、地域で課題を共有し多職種での連携構築の第一歩を踏み出すことができました。

参加者からは、「とても分かりやすく、大変勉強になりました。」「地域の皆で協力し支えあっていきたい。」「また聞いてみたい。継続して開催してもらいたい。」等の声を頂きました。

今回だけの学びではなく来年度も引き続き企画していきたいと思うと共に、今回の学びを地域の関係者と連携を取りながら共有し、今後の居宅介護支援に活かしていきたいと思えます。



外来診察担当医

令和6年4月1日

内科	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
	山崎(第1)	岩崎(第3)	山崎	八木	清藤(第1・3)	山崎	八木	八木	山崎	山崎	麻生	休診
	八木(第2・4・5)		八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	休診
精神科	赤川	赤尾	大畑	藤戸良輔	赤川	西原	内野	交代制	交代制	交代制	休診	

芸西病院

被災地見学研修会に参加して

看護部長 田村 文佳
看護副部長 野町 清佳

東日本大震災で被害の大きかった仙台市で、日本老年看護学会主催の被災地見学研修会が開催されました。南海トラフ地震に備えて学びを深めるため、田村・野町の2名で参加して参りました。

1月27日仙台空港に降り立ち、私たちは名取市震災復興伝承館を目指しました。おりしも石川県の能登半島でM7.6、最大深度7の直下型地震が発生した後で、こんな時に訪れていいものかと悩みましたが、こんな時だからこそという思いで、東日本大震災の被災地である宮城県名取市（ゆりあけ）閑上地区をバスで巡り、被害や復興の状況を体感して防災意識を高めると共に、高齢者ケアの専門職に求められる災害支援の重要な視点・平時の備えについて学んできました。

さそ学びました。東北大学災害科学国際研究所のボレー・ペンメレス・セバスチャン先生からは、13年たった今現在も復興が完了していない閑上の状況をお聞きしました。なぜ犠牲者が多く出たか？の理由として①昭和8年の地震津波での教訓が伝わらなかつた②「津波は閑上には来ない」という神話ができていた③いったん避難した住民が勝手に自宅に戻り犠牲となった、などを挙げられ、現在『自分の命は自分で守る・早めの避難』を教訓とした、災害に強い街作りを進めているそうです。先生は震災前の歴史から災害後の記憶を繋ぐことの大切さを語られました。そうすることで地域には過去の経験が残って

いくから、それを忘れず未来に向けて語り継ぐこと、そして犠牲者に手を合わせる必要だと話され、来る南海トラフ大地震を迎え撃つ私たちの心構えとなりました。当法人も災害への備えを着実に進めてまいります。



②2階までおしよせた瓦礫

仙台市立荒浜小学校見学にて



①小学校からのながめ 荒浜

血管の「硬さ」「詰まり」の検査を受けてみませんか

放射線室長 廣地 祿代

「動脈硬化」は、サイレントキラー（沈黙の殺人者）とも言われます。

加齢とともに進行しますが、ある程度までは自覚症状が無く、体の中で静かに進行し、やがて心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈疾患、大動脈瘤、腎不全といった様々な疾患の原因となります。高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、ストレス、遺伝、喫煙などもリスクファクターとなり、ある日突然の脳梗塞や心筋梗塞、急性の下肢動脈の閉塞などは一刻を争う命の危機ともなるため、ご自身の血管状態を知り、日常生活習慣や食生活を整えていくことがとても大切です。

その動脈硬化の程度（動脈硬化の進行具合、血管の詰まりの状態など）を当院でも簡単に調べることができます。それが血管脈波検査です。検査は簡単。両腕と両足に血圧計を巻き、上腕収縮期圧と足関節収縮期圧を測定することで動脈の閉塞・狭窄具合を評価します（A B）。ま

た当院で使用している装置では心臓から足首までの血管の硬さも調べることが出来ます（CAV）。いずれもベッドに横になって15分ほどで検査でき、その日のうちに結果を知ることが出来ます。

急に胸が痛くなり息が苦しくなる、脳梗塞が心配、少し歩くと足が痛くなる…それらの原因は、実は血管老朽化のサインかもしれません。これらの検査をぜひご検討ください。ご自身の身体のチェックをし、食生活や日常生活に気をつけて「健康に長生きする」健康寿命増進を心がけませんか。



ようこそ、
ガイさん

―当院初の「外国人看護師」にインタビュー―

芸西病院だより編集委員 廣地 緑代



用できるのは毎年20名ほどと狭き門でしたが、ベトナムの看護師資格や実務経験年数などの条件をクリアし、日本語研修を1年受け、試験に合格して来日したのは2017年5月、26歳の時でした。

来日後は医療現場で看護補助業務をしながら日本語や看護技術の勉強を重ね、2020年の3月に日本の看護師国家試験に合格しました。数年働いて技術を覚えベトナムに帰るつもりでしたが、日本にずっといたくなり、今に至ります。

一つ、芸西村を始め県東部には私と同郷のベトナム、インドネシア、フィリピン等より来た外国人労働者が1200人ほどいます。私は今、外国人労働者管理団体で通訳のお手伝いもしていますが、その人たちが当院に健康診断で来られた際のサポートや日々の健康管理に携わり、外国人労働者が高知で元気に、安心して働けるお手伝いをしたいと思っています。

私は、ベトナムで看護師として働いていました。日本の医療はベトナムよりも随分進んでいて、勤勉でマナーのいい日本という国で、日本の医療技術を学びたい気持ちが強く、大学の先生方の協力を得てEPAの制度を利用することにしました。その制度を利

用できるのは毎年20名ほどと狭き門でしたが、ベトナムの看護師資格や実務経験年数などの条件をクリアし、日本語研修を1年受け、試験に合格して来日したのは2017年5月、26歳の時でした。



リレーエッセイ No.77
「生きもののいる生活」

グループホーム 介護福祉士 靄田 まや



子供のころは、生物学者になり野山を駆け回って新種を発見し自分で名前をつけるのが夢でした。今でも生きものが大好きで沢山の生きものに囲まれ生活しています。今日は我が家の生きものたちを紹介したいと思います。最近ではペットショップで見られることも多くなったフクロモモンガ、フトアゴヒゲトカゲを始め、フクロウ、ヒメハリテンレック、ミニレックス、鉄魚、カエル6種類がいます。

お迎えして初めて分かる事が沢山あり、特にフクロウは素敵な誤算がいくつもありません。触られることがストレスになる種なのであまり干渉せずただ一緒に空間で生活するだけと想像していました。が、呼べば返事をしながら羽を半分広げた状態で走ってきたり、肩や膝に乗り一緒にテレビを観たり、挙げ句には私をパートナー認定…どう応えてやればよいやら悩みの種となりました。猛禽類の飼育は大変な事も多く、食事の世話、



やわらぎ通信

「令和6年度のはじまりに」

施設長 中本 雅彦

リゾートビルやわらぎ
運営理念
その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

新たな年度を迎えた希望の季節、そして6年に一度の介護診療報酬同時改定の春、いつも以上に心が躍ります。現場実務的には多用なこととなりますが、先ずは報酬改定↓利用料金変更↓ご利用者皆様への「料金等改定の説明とご了承いただく共同作業」が急務となります。皆様のご理解ご協力を何卒よろしくお願いたします。

さて、この春の報酬改定のポイントについて老健施設関連をいくつか紹介いたします。

【医療機関との連携及び医療機能強化】これまで以上に芸西病院や県立あき総合病院など地域の関係性の深い医療機関との連携を強化し、ご利用者への感染症対応や高齢者によくみられる慢性疾患・その増悪等への対応などを充実していきます。

【看取りケア】近年、全国的に病院でお亡くなりになる方は減少傾向で、自宅や多様な施設で最期を迎える方が増加傾向です。当施設でもご本人・ご家族の望むご本人らしさを大切にしたい人生の最終段階のケア、看取りケアの充実に取り組めます。

【高齢者の権利擁護】高齢者の権利侵害、虐待等の報道が後を絶ちません。ご利用者への不適切ケアの排除と身体拘束廃止、虐待ゼロを地域の皆様と共に推進します。

【認知症の様々な症状へのケア力向上】重度な認知症症状のある方への対応力の強化、緊急時の対応力が求められます。当施設は2階の入所フロアにてより専門性の高い認知症ケアを実践しています。

【個別リハビリ・お口の中のケア・栄養管理を総合的に】お口の良好な状態を保ち（義歯・清潔等）しっかりと必要な栄養を摂り活動して筋力・体力・持久力を維持し、介護の重度化防止等を図ることが求められます。

【在宅支援機能強化】一日でも長く住み慣れたご自宅等での生活が可能となるよう多くの体制を整え支援します。

【褥瘡対策と尊厳ある排泄ケア】栄養管理及び身体に負担の無い姿勢等を

整え褥瘡予防・褥瘡治療に努めます。また自尊心を大切に身体に負担の無い排泄方法を考え実践していきます。

【介護ロボットやICT、見守り機器等の導入促進】日本のあらゆる産業にて働く人口が減少している現在、今以上ケアスタッフが増加するとは言い難い状況です。そこでスタッフを手助けし、これまでにないご利用者の安心安全な生活環境を整える方法として各種の機器の導入が促進されています。

この春以降の報酬改定による老健施設サービスの変更点は他にも多数あります。詳細につきましては、支援相談員より順次説明させていただきます。制度改定は定期的に行われますが「その人らしさを尊重し 人と人とのつながりを大切に 明日につなげるケアをめざす」やわらぎ理念も、時代の変遷とともにブラッシュアップさせていただきます。

お米の贈呈式

今年、芸西小学校5年生の子供たちから新米をいただきました。ありがとうございます。ございました。



久礼田明伯様

(1階入所 佐藤恵美様のご親族)より、書道作品をご寄贈いただきました。いつもありがとうございます。



アロマテラピー

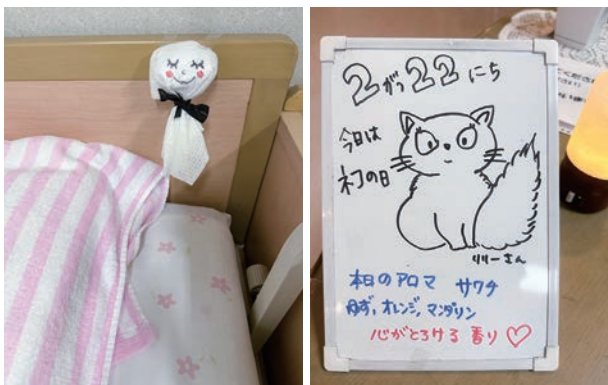
アロマテラピーアドバイザー・アロマハンドセラピスト
やわらぎ1階・看護主任 **森本 寛子**



アロマテラピーは、植物から抽出された精油を使って、心身の健康や美容に役立てる自然療法です。

以前はアロマテラピーというと、癒しや女性のイメージでしたが、最近では男性や高齢者へのニーズが高まっています。アロマテラピーで使用する精油は薬理成分の集合体で、その中には抗炎症作用、鎮静作用、抗ウイルス作用、殺菌作用など、さまざまな作用があります。日本では精油は薬ではないので、医師が症状を診て精油を処方することはありませんが、医療としてアロマテラピーが行なわれているフランスでは、精油を薬の代わりに処方する場合があります。精油は西洋薬のように症状を抑えるのではなく、その人の持った免疫力を高めてくれます。精油は鼻から入り大脳辺縁系に届くため視床下部や、下垂体にも伝わります。そのため、ホルモン分泌や、内臓の働き、脳の活性化を促します。認知症予防や、認知症の中核症状、BPSD（行動症状）にも効果があると言われています。

現在やわらぎでは、アロマディフューザーを使って精油を拡散していますが、こうしたグッズを用意してなくても、ティッシュに精油を染み込ませたり、お湯をはったカップに垂らすなどして、身近なものを使って試してみるのも簡単です。精油の自然の芳香成分を鼻から取り入れることで、利用者さんやスタッフが感じているストレスや、不調の軽減にも役立ちます。夜、眠りにくい利用者さんには、不織布で、てるてる坊主を作り、精油を垂らしてベッドサイドに置くだけで、改善されている方もいます。香りが脳に与える影響はとも



深いものがあります。利用者さんの心身の安寧を守ることが、私たち医療専門職の目的ですが、私たちスタッフもセルフケアとして自然の心地よい芳香成分を鼻からとり入れ、心身のコンディショニングを整え、健やかに過ごしたいですね。参考文献：アロマで予防認知症 主婦の友社 浦上克也

「接遇研修における学び」

支援相談員 **小笠原 規真**

令和6年1月20日（土）、高知県介護老人保健施設協議会主催の令和5年度接遇研修に参加させていただきました。講師は株式会社アンビション室長を務める山中由美子先生でした。接遇研修は昨年度初めて受講させていただきました、今回で2回目の受講になりました。自分も早いことでやわらぎの支援相談員として勤め始め、約2年が経ちました。仕事にもようやく慣れ始めてご利用者の方々と毎日楽しく過ごさせていたでいます。接遇研修を受ける中でふと「接遇」とはなにかと意味を確認した時に「接」は近づく、触れ合う、「遇」はおもてなすということ、ご利用者に安心・信頼・満足を届ける為にも必要不可欠な要素であるということです。自分としての「接遇」が日頃ご利用者と関わる中で適切に行えているのか、無意識のうちにマナーに欠けてしまっているのではないかと改めて考えさせられるきっかけになりました。お恥ずかしいことですが段々にご利用者と過ごす時間が長くなるにつれてついつい自分の言った言葉が伝わるだろうと思いつつ、言葉を省略してしまったり敬語が抜けたりしてしまいます。利用者の立場に立つて考えると言葉遣いひとつで相手に対しての印象を左右するものでもあり、信用できる人かどうかを判断するものでもあります。心地よく生活してもらうためにも無意識のうちに行っている行動を見つめ直してより良いケアが提供できるように取り組んでいきたいと思いました。



クラブ活動

釣りクラブ



初詣で大漁祈願

園芸クラブ



硬筆クラブ



生花クラブ

行事

新年会



節分会



やわらぎレクティン



ホットチョコレートミルク

ひな祭り



無我夢中 ④④

通所リハ

介護福祉士 西森 博美

やわらぎ通所リハに勤務しています西森です。よろしくお願ひ致します。

私が「夢中」になっているのは「お祭り」「イベント」「食べる事」大好きです。

コロナ禍で色々なイベントが中止になったり縮小されたりと、現在もまた、インフルエンザなども流行禍の中ではありますが、昨年より少しずつ様々なイベントも再開され大変うれしく思っています。一番は何と言っても「よきこい祭り」です。「よつちよれよー。よつちよれよー」昼の部一番からどんなに暑くてもイ支持参でひろめ市場の前の追手筋でかき氷やからあげを購入し、最終まではりついて各チームの演舞を応援し楽しんでいきます。

秋には山田の「ゑびすの昭和横丁」です。昭和レトロなステージや歌、なつかしい給食メニューの食堂、月光仮面やシヨッカーもこの令和の時代も大活躍で一日中楽しめました。

冬には赤岡の「冬の夏祭り」です。路上のコタツに入って頂くこんにやく煮や焼きハマグリなど絶品です。商店街の2階から銭形平次の曲とともに始まるいきなりもち投げなどたくさんの方が集まっています。なつかしい着物をお召しになられたお店の人やお客様も素敵だなあと、毎回感激しています。その他にも、たくさんイベントに行かせてもらっています。

また今年も元気の源！地域の人に元気をもらって、おいしいものをいっぱい飲んで食べて色々なイベントに出かけて行きたいと思っています。

